

平成28年度

施設事業報告書

社会福祉法人 恵の園

種 別	施 設 名 称
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	ベ テ ル
障 害 者 支 援 施 設	グ レ イ ス ホ ー ム
障 害 者 支 援 施 設	あ け ぼ の ホ ー ム
障 害 者 支 援 施 設	め ぐ み の 里
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	エ ス テ ル
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	シ ャ ロ ー ム
障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業	マ イ ー ム
相 談 支 援 事 業	ぶ ど う の 木
認 知 症 対 応 型 老 人 共 同 生 活 援 助	さ つ き
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム	カ ナ ン
デ イ サ ー ビ ス	ゆ う か り
渋 川 市 心 身 障 害 者 (児) デ イ ・ サ ー ビ ス セ ン タ ー	あ じ さ い の 家

目 次

第1章 年間行事、集会等	1
第2章 会議・研修・集会等一覧	3
第3章 障害福祉事業	
1.ベテル〔就労移行支援事業・就労継続支援事業B型・継続入所支援事業〕	5
2.グレイスホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	10
3.あけぼのホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	14
4.めぐみの里〔生活介護事業・施設入所支援事業〕	21
5.エステル〔就労継続支援事業B型〕	26
6.シャローム〔就労継続支援事業B型〕	29
7.マイーム〔共同生活援助事業・共同生活介護事業〕	31
第4章 相談支援事業	
1.ぶどうの木	33
第5章 高齢福祉事業	
1.さつき〔地域密着型サービス認知症対応型老人共同生活援助〕	34
第6章 公益事業	
1.あじさいの家	36

第1章 年間行事、集会等

(法=法人、B=ベテル、GH=グレイスホーム、AH=あけぼのホーム、里=めぐみの里、エ=エステル、あ=あじさいの家、シャ=シャローム、さ=さつき

マ=マイーム、カ=カナン、ゆ=ゆうかり)

月	合同行事	施設別行事	研修会・集会・会議	その他
4	辞令交付式 1日 カナン落成式 13日 家族会総会・懇談会 16日	お花見（各施設で実施）	現任研修1回(各施設で実施) 創立の精神を学ぶ集い 1日 一般職研修会 18日	新任職員歓迎会 4日 チャイの日 14日
5		知的施設レクリエーション大会 26日	現任研修1回(各施設で実施) 新任チーフ研修 2日 コーチング研修 6日 創立の精神を学ぶ集い 7日 監事監査 19日 理事会・評議員 27日	介護職員初任者養成研修講義 16日 職員旅行① 20日
6		親笑レクリエーション大会 15日	現任研修1回(各施設で実施) 故人を偲ぶ会 20日 経営会議 20日 管理職研修会 21日 リーダーズアカデミー 23・24・27・29日	職員旅行② 3日～4日 職員旅行③ 10日～11日 群馬県実地指導(エ) 16日 群馬県実地指導(シャ) 21日 群馬県実地指導(B) 22日
7	納涼祭 29日	前橋七夕まつり見学(あ) 8日 家族連絡会(里) 10日	現任研修1回(各施設で実施) 新任職員フォローアップ研修 1・15日 全体研修 11日 一般職員研修会 19日 役職研修会 19日	家族会ボランティア 10日 職員ボランティア 16日 介護職員初任者養成研修講義 22日
8		暑気払い(AH) 10日	リーダーズアカデミー 12・18・19・29日 指導職研修会 22日 経営会議 22日	夏季職員交流会 22日
9		一泊旅行(シャ) 15～16日	現任研修1回(各施設で実施) 理事会・評議員会 9日 創立の精神を学ぶ集い 24日 中堅職員研修 24日	職員旅行④ 30日～10月1日
10	恵の園後援会バザー 15日 創立記念日(48周年) 20日	家族連絡会(里) 8日 日帰り旅行(エ) 13日 秋の会食会(GH) 13日 りんご狩り(ゆ) 18・19・20日	現任研修1回(各施設で実施) リーダーズアカデミー 14・19・20日 創立の精神を学ぶ集い 17日 永年勤続職員表彰 17日	職員旅行⑤ 7日 家族会ボランティア 8日 職員旅行⑥ 21～22日

		創立記念セール(シヤ) 23日 ボランティア交流会(GH) 27日	管理職研修会 17日 一般職研修 17日 役職研修 17日	
11	秋桜祭 5日 筑井孝子先生チャリティ絵画展 20～23日	日帰り旅行(B) 9日 日帰り旅行(GH) 10日 秋の会食会(さ) 23日 ランチを楽しむ会(里) 30日	現任研修1回(各施設で実施) 全体研修 9日 指導職研修 21日 経営会議 21日 創立の精神を学ぶ集い 26日	職員ボランティア 3日
12	クリスマス集会 24日 仕事納め・大掃除 28日	澁川市勤労者協議会との もちつき交流会(里) 3日 もちつき(GH) 6日 慰労会(エ) 8日 年末会食会(AH) 14日 もちつき(シヤ) 14日 クリスマス会食会(あ) 14日 慰労会(B) 21日 もちつき(AH) 21日 忘年会(シヤ) 28日	現任研修1回(各施設で実施) リーダースアカデミー 12・22・26日 理事会・評議員会 15日 創立の精神を学ぶ集い 19日	冬季職員交流会 19日 澁川市実地指導(ぶ) 19日
1	仕事始め・新年会 4日	新年会(GH) 10日 家族連絡会(里) 15日 新年会(マ) 29日	現任研修1回(各施設で実施) 創立の精神を学ぶ集い 14日 指導職研修会 15日 経営会議 15日 理事会 23日	ゆうあいフェスティバル 10～12日 家族会研修会 15日 澁川市実地指導(さ) 18日 群馬実地指導(ボ) 24日
2			現任研修1回(各施設で実施) リーダースアカデミー 13・16・27日 創立の精神を学ぶ集い 20日 経営会議 20日	群馬県実地指導(あ) 16日
3		いちご狩り外出(あ) 3日	現任研修2回(各施設で実施) 新任フォローアップ研修 6日 理事会・評議員会 18日 創立の精神を学ぶ集い 18日 管理職研修 21日 新任職員研修会 22～25日	職員壮行会 27日

第2章 会議・研修・集会等一覧表

各施設の会議及び集会、研修について下記のとおり実施した。

(1) 会議・集会等

	会議等の種類	曜日・回数等	時間	場所	出席の範囲
会 議	経営会議	隔月	13:30~15:30	めぐみの里会議室	相談役、理事長、施設長
	管理職会議	毎週火曜日	10:10~12:00	めぐみの里会議室	施設長、副施設長
	チーフ会議	毎週火曜日	13:00~14:00	めぐみの里会議室	チーフ(各部署から1名)施設長又は副施設長が必ず参加
	地域福祉係会議	第1金曜日	14:10~16:00	めぐみの里会議室	地域福祉係担当者
	人材育成係会議	第2水曜日	14:30~16:00	めぐみの里会議室	人材育成係担当者
	広報係会議	第4金曜日	14:00~16:00	めぐみの里会議室	広報係担当者
	防災係会議	第1水曜日	14:00~16:00	めぐみの里会議室	防災係担当者
	安全衛生委員会	第2金曜日	13:30~14:30	めぐみの里会議室	安全衛生管理監督者、衛生管理者、産業医、担当職員
	IT担当会議	第2木曜日(奇数月)	14:10~15:00	めぐみの里会議室	IT担当者
	固定資産管理係会議	第2木曜日(偶数月)	14:10~15:00	めぐみの里会議室	固定資産管理係担当者
	ベテル会議	第3木曜日	15:15~17:00	ベテル会議室	施設長、所属職員
	グレイスホーム会議	第1.3木曜日	14:00~16:00	グレイスホーム職員室	施設長、所属職員
	あけぼのホーム会議	第1.3木曜日	14:00~16:00	あけぼのホーム職員室	施設長、所属職員
	めぐみの里会議	第1.3木曜日	14:00~16:00	めぐみの里多目的室	施設長、所属職員
	シャローム会議	第3金曜日	18:00~19:00	シャローム職員室	施設長、所属職員
	エステル会議	第3水曜日	17:30~19:00	エステル職員室	施設長、所属職員
	あじさいの家会議	月1土曜日	9:00~10:00	あじさいの家職員室	施設長代理、所属職員
	知的障害者施設 給食会議	第3木曜日	13:30~14:30	めぐみの里食堂	栄養士、給食担当者、業務委託者他
	バルナバホーム会議	毎月1回	9:30~11:00	めぐみの里会議室	サービス管理責任者、世話人、バックアップ施設職員
	さくらホーム会議	毎月1回	9:30~11:00	めぐみの里会議室	サービス管理責任者、世話人、バックアップ施設職員
	クロスホーム会議	毎月1回	9:30~11:00	めぐみの里会議室	サービス管理責任者、世話人、バックアップ施設職員
	ダビデホーム会議	毎月1回	9:30~11:00	めぐみの里会議室	サービス管理責任者、世話人、バックアップ施設職員
	さつき会議	第4水曜日	14:00~16:00	さつき職員室	施設長代理、所属職員
	ぶどうの木会議	第3木曜日	13:00~15:00	ぶどうの木相談室	施設長、所属職員
	ポパイ会議	第1金曜日	15:15~17:15	ポパイ相談室	施設長、所属職員
	カナン会議	第1.3水曜日	14:00~16:00	カナン会議室	施設長、所属職員
	ゆうかり会議	第3水曜日	17:30~18:30	カナン会議室	施設長、所属職員
庶務・経理係会議	第1木曜日	10:15~12:00	庶務・経理事務室	総務部長、所属職員	
身体障害者施設 給食会議	第3水曜日	14:00~15:00	グレイスホーム食堂	栄養士、給食担当者、業務委託者他	
集 会 等	職員朝礼	毎日	8:30~8:40	合同事務所	全職員
	全体朝礼	毎週月曜日	8:45~9:00	あけぼのホーム前広場	身体障害者施設利用者、職員
	創立の精神を学ぶ集い	土曜日月1回	10:20~11:50	めぐみホール	利用者、職員

(2) 研修会

研 修	管理職研修(相談役による)	年 3 回	10:30~12:00	めぐみの里多目的室	管理職
	指導職研修(相談役による)	年 3 回	10:30~12:00	めぐみの里多目的室	指導職
	リーダーSアカデミー	年 5 回(偶数月)	10:10~11:40	めぐみの里会議室	管理職、指導職
	新任チーフ研修	年 1 回	9:00~12:00	めぐみの里会議室	28 年度新任チーフ
	新任職員研修フォローアップ研修	年 2 回	9:00~12:00	めぐみの里会議室	27 年度中途採用職員(T1 含む)、28 年度新任職員(T1 含む)
	新任職員研修	年 1 回	9:00~20:00	研修センターリバーサイド	28 年度中途採用職員(T1 含む)、29 年度新任職員(T1 含む)
	現任研修(一部役職研修含む)	年 15 回	各部署で設定	各部署	相談役、理事長、管理職、指導職、一般職他
	全体研修	年 2 回	17:45~19:00	めぐみの里多目的室	管理職、指導職、一般職員
	中堅職員研修	年 1 回	9:00~12:00	めぐみの里多目的室	原則経験 4~8 年目の職員

第3章 障害福祉事業

1. ベテル〔就労移行支援事業・就労継続支援事業B型・継続入所支援事業〕

(1) 概要

継続入所支援利用者は、4月1日の時点で3名であったが、1名が4月13日にグレイスホームへ入所、1名が6月1日にクロスホームに移行、1名が若杉寮の一室をアパートとして賃貸契約を結び、5月31日をもって事業を終了した。

(2) 年間退・入所状況

①就労移行支援事業

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
5月31日	男性	渋川市	1月7日	男性	榛東村
			2月1日	男性	渋川市

②就労継続支援B型事業

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
4月13日	女性	新潟市	12月21日	男性	渋川市
6月30日	女性	渋川市	1月4日	男性	渋川市
7月9日	男性	江東区			
10月30日	男性	渋川市			
11月30日	男性	渋川市			
12月22日	女性	安中市			

③継続入所支援事業

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
4月13日☆	女性	新潟市			
5月31日※	男性	立川市			
5月31日*	男性	八王子市			

☆の利用者は、平成27年4月14付けでグレイスホームへ入所

※の利用者は、平成27年6月1日にクロスホームへ移行

*の利用者は、平成27年6月1日に若杉寮の一室をアパートとして生活を開始した

(3) 重点目標に対する取り組み

①就労移行支援事業

ア 技術の向上はもちろん、就労先である企業が求める社会常識を身に付けるための支援内容を実施する。

- ・利用開始時に行なうアセスメント以外に、就労に直結する項目を加えた就労移行支援

専用様式のアセスメントを再実施し、個人の長所・短所の把握に努めた。

イ 利用者獲得のためのPR活動を行なう。

- ・就労移行支援独自のパンフレットを作成。ハローワークやなんでも相談室など各関係機関に配布したことにより、特別支援学校の就職説明会に参加する機会を得た。

②就労継続支援B型

オンデマンド印刷機を導入し、利用者の作業範囲を拡大させる。また、外注加工費を削減することにより利用者工賃の向上を目指し、目標工賃（17,000円）を達成できるように支援する。

- ・平均工賃は18,270円（前年比2,155円増）。目標を大きく上回った。
- ・各班年間売上と平均工賃

班名	平成27年度売上実績	平成26年度売上実績	前年比
印刷班	25,322,969円	18,094,794円	7,228,175円
販売班	3,836,607円	4,075,710円	-239,103円
軽作業班	3,138,054円	2,557,956円	580,098円
製袋班	6,709,044円	7,595,144円	-886,100円
各班合計	39,006,674円	32,325,764円	6,683,070円
平均工賃（月額）	18,270円	16,115円	2,155円

③継続入所支援

利用者3名が安全で安心できる生活の場について検討を行ない、年度早期での事業廃止を目指す。また、事業廃止後の3号棟については解体計画を作成する。

- ・6月1日から、完全に通所事業に移行したが、解体について概算を問い合わせたものの、計画作成には至らなかった。

（4）各班収支状況

①印刷班

- ・年間売上額は、約2,532万円（前年度比：139%）。売上目標に対する達成率は約153%。年間収支の累計額は約185万円のプラス（前年度比：192%）であった。また、外注費は約1,557万円となり売上に対する比率は約60%。前年度の外注費は約1,146万円で、売上に対する比率は約64%であったことと比較すると予想ほどの削減には至らなかったが、それでも大幅な利益率の向上となった。

②販売班

- ・年間売上額は、約383万円（前年度比：94%）。現場担当の正職員の休職及び産休と販売同行の契約職の退職が重なり、他職員でフォローしなければならず、引継ぎもできない状態であったため、新商品として導入を進めていたオリジナルブレンドコーヒーに関しては実施できなかった。しかし、今まで販売班に携わることのなかった他職員たちがフォローに入ったことにより、販売班の存在価値（売上等の部分だけでなく、利用者のお客様への接し方、利用者自身が金銭や商品を管理することの意義等）を見

直すことができるなど様々な視点で課題を見つけることができた。

③軽作業班

- ・年間売上額は、約 313 万円（前年度比：約 122%）。内訳としては、銅箔とアルミの分別作業が 1,260,000 円。発砲スチロールのテープ留め作業と排水溝部材の梱包作業を合わせて 1,303,875 円であった。発砲スチロールのテープ留め作業と排水溝部材の梱包作業については、前年度と比較すると、約 1.4 倍の売上げとなった。この 2 つの作業の売上げは、軽作業班の総売上げの約 81%を占める結果となった。
- ・LED の解体等、単発ではあったが、様々な作業の依頼があり、その売上額が約 38 万円となり、売上げ増加に繋がった。
- ・新規作業の取り組みとして、アルミ枠のリサイクル作業を 10 月 15 日から開始した。また、12 月 16 日からプラスチックキャップの選別・粉砕作業を開始した。この 2 つの作業は、ともに大幅な売上増には繋がらなかったが、来年度に向けての足がかりを築くことはできた。

④製袋班

- ・年間売上額は、約 670 万円（前年比：88%）、売上目標達成率は 79%。
職員の配置転換による経験不足、技術力不足で製袋機の定期的な清掃や状態確認を実施する余裕がなく、稼働状況が不安定となってしまった。また、同様の理由から機械調整に時間が掛かり、製袋機始動までのタイムロスが多かった。しかし、年度末に近づくにつれ、稼働状況は安定、売上金額も増加傾向となった。

（5）利用者支援

①就労移行支援事業

訓練内容

- ・所属している各班の作業内容の活用に加え、履歴書の書き方・面接の練習・電話対応の練習時間を設定、実施した。

②就労継続支援 B 型

作業支援

ア 印刷班

- ・オンデマンド印刷機操作に関して、まず、職員の実演をみて、説明内容を把握する事から始め、次の段階では、実際に操作してもらい、職員がアドバイスを言おうという形で支援を実施。封筒及び名刺に関しては、オンデマンド印刷機への用紙のセットから、操作しての印刷、更に印刷後の最終確認、納品準備までの一連の流れを自分たちで行なえるようになり、大幅に作業範囲が拡大した。

イ 販売班

- ・4 月に所属利用者 1 名が退所し、3 名体制となったが本人達の意見を組み、時間調整を行ないながら極力 4 箇所販売を継続した。また、そういった状況の中で在庫整理が雑になった面が見られたため、週に 1 日は販売に出掛けず園内作業を実施するとともに、チェック表を刷新することで、より正確な在庫管理が行なえるようにした。

ウ 軽作業班

- ・銅箔とアルミの分別作業をはじめ、リサイクルに特化した作業を中心に取り組んだ。複数の作業を展開していくにあたり、今まで以上に作業への適応力が求められたが、利用者個々の障害特性から、取引先が求める製品の質、納期をクリアしていくために、一部の作業で職員が中心になってしまう課題が残った。

エ 製袋班

- ・利用者の高齢化、それに伴う欠席の増加に対応するため、必要性の高い工程を複数の利用者が行えるよう支援を行ない成果が現れ始めた。今後も継続し、個々人の作業範囲の拡大を目指す。

④行事・集会開催状況

月	日	内 容	月	日	内 容
4	9	春季日帰り旅行	11	26	秋季日帰り旅行
6	17	親笑レクリエーション大会	12	17	慰労会
	23	カナン定礎式	1	4	利用者・職員新年会
8	5	夏季日帰り旅行			
	19	東京女学館交流会			
9	17	ボランティア交流会			
	19	地域サービスデー			

(6) 医務面の状況

①年間報告

月	日	項 目	内 容
4	16	血圧・体重測定	
5	21	血圧・体重測定	
	28	血液検査	
6	9、10、11	前期健康診断事前検査	尿検査
	18	血圧・体重測定	
	25	前期健康診断 聴打診	嘱託医(利用者、35歳未満職員)
7	16	血圧・体重測定	
8	20	血圧・体重測定	
9	17	血圧・体重測定	
10	15	血圧・体重測定	
	20	レントゲン撮影	レントゲン車
11	5	インフルエンザ予防接種	
	19	血圧・体重測定	
12	2	血圧・体重測定	
	4、5	後期健康診断 事前調査	尿検査

	10	後期健康診断聴打診	嘱託医（利用者）
1	21	血圧・体重測定	
2	18	血圧・体重測定	
3	17	血圧・体重測定	

※ 9月・10月・11月・12月

生活習慣病予防検診実施（35歳以上の職員）

（7）日中一時支援事業

月	利用人数	利用延べ日数
4		
5		
6		
7		
8	1	11
9		
10	1	2
11	2	4
12	2	13
1		
2		
3		

2. グレイスホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕

(1) 概要

利用者の高齢化・重度化の進行により、身体的介助の必要な方が増加。ベッドやトイレへの移乗の際の転落や居室での転倒等、利用者単独でのヒヤリハットも増加（平成26年度35件から平成27年度は48件）し、利用者へ向けた講習等を計画した。また、共同募金で低床ベッド10台申請。来年度の受配が決まった。

(2) 年間入退所

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
4月2日	男性	渋川市	4月14日	女性	新潟市

(3) 重点目標に対する取り組み

①業務マニュアルの再整備

- ・既存のマニュアルを全職員が再確認し現状にそぐわない箇所をチェック、職員会議等でも検討しながら修正した。
- ・不備や現状にそぐわない箇所などの修正を行なうことで、業務の振り返り、見直しにも繋がった。

②認知症予防のための取り組み

- ・年間を通し現任研修にて認知症についての特徴や支援の方法、予防に効果的な運動や食材などについて学んだ。
- ・毎朝の体操に認知症予防のための頭や四肢を使う運動を追加、継続して実施した。
- ・認知症予防に効果があるとされる食材を使用したお菓子を料理クラブにて作成。来年度も引き続き料理クラブで取り組むこととした。

③「終末期の迎え方・過ごし方」を利用者と共に考える

- ・利用者へ聴き取りのための書式「その日のために」を作成。支援計画のモニタリングの際、ケース担当を交え利用者に確認、必要に応じケース会議等で検討した。
- ・家族の意向の確認や具体的な終末期に向けての対応については、今年度は聴き取りを集中的に行なったため、来年度の継続課題とした。

(4) 利用者支援

①生活介護・施設入所支援

ア 生活支援

- ・防災の課題として挙がっていた巡回時の検索済みの方法を確立。防災訓練時試行した。
- ・食事のあり方について、理事長に話をいただいた。来年度にグレイスホームの食事のあり方を確立させることになった。

イ 機能訓練

- ・リハビリカンファレンスを10月から毎月実施。

ウ 創作・文化活動

- ・グレイスホーム設立40周年作品として大壁画の作成に着手。テーマや手法、展示場所、作品の方向性等は決まり作成を進めたが、完成までには至らなかった。作成は来年度に継続となった。
- ・日帰り旅行では、「群馬の魅力再発見」をテーマに旅行を実施。

エ 生産活動

- ・知的関ブロ資料発送作業でミス。クロネコヤマトDM便のバーコードシール貼付漏れが11通あり、発注先に謝罪。ダブルチェックと作業終了後の最終確認の徹底を対策とした。

オ 医務面

- ・定期的な健康診断・検査・健康相談を行ない、医師の指示を仰ぎながら健康の維持管理を行なった。

・年間報告

月	項目	内容
4	訪問歯科利用開始	伊勢崎デンタルクリニック（毎週金曜）
5	利用者採血	（株）BML
6	利用者前期健康診断	嘱託医
7	職員胸部レントゲン撮影・採血	三愛クリニック(35歳未満職員・深夜業務従事者)
8	耳鼻科検診	川島耳鼻科
10	利用者定期結核健康診断	渋川保健所
11	インフルエンザ予防接種	利用者15名、職員20名
12	利用者後期健康診断	嘱託医（利用者、夜勤職員）
1	職員胸部レントゲン撮影・採血	三愛クリニック（35歳未満職員・深夜業務従事者）
※生活習慣病予防健診（35歳以上の職員） ※鍼灸の往診治療を実施（龍華鍼灸院：毎週月曜日） ※マッサージの往診治療を実施（桃ノ木治療院）		

・通院状況（延件数）

内科	外科	歯科	耳鼻科	皮膚科	眼科	神経科	泌尿器科	整形外科	脳外科	循環器科	呼吸器科	他	合計
134	37	100	22	26	37	65	126	31	12	6	0	5	601

（平成26年度596件）

・園内治癒状況（延人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
191	207	174	197	227	155	216	143	198	212	219	210	2349

(平成 26 年度 2,409 人)

・ 医師診察状況 (延人数)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
17	34	52	46	37	39	41	59	61	40	44	37	507

(平成 26 年度 223 人)

・ 入院状況

氏 名	病 名	入院期間	病 院
S. H	肺炎	3/17～4/2	北毛病院
N. K	尿路感染症、褥瘡	5/25～7/7	北毛病院
K. T	尿路感染症	6/20～7/1	北毛病院
S. H	感染症	6/22～7/21	北毛病院
S. H	肺炎	7/24～8/13	北毛病院
T. H	強迫性障害	7/30～9/7	榛名病院
N. K	イレウス	8/18～8/25	北毛病院
N. K	肺炎	9/9～9/25	北毛病院
S. H	肺炎、尿路感染症	9/17～10/5	北毛病院
H. K	下血、虚血性腸炎	9/18～9/24	北毛病院
S. H	気管支炎	10/9～10/19	北毛病院
N. K	イレウス	10/14～10/26	北毛病院
T. H	慢性硬膜下血腫	10/5～11/4	中央群馬脳神経外科病院
M. T	食欲不振	11/6～11/25	北毛病院
N. K	イレウス	12/1～12/7	北毛病院
N. K	アルブミン値低下	2/9～3/17	北毛病院
S. H	検査入院	2/18～2/23	北毛病院
T. H	強迫性障害	3/18～	榛名病院
N. K	尿路感染症	3/19～3/29	北毛病院
T. T	包茎、内尿道括約筋切除術	3/29～3/31	有馬クリニック

②年間行事報告

月	日	内容	月	日	内容
4	16	花見	10	2	ふれあいボーリング
6	17	親笑レクリエーション大会		29	日帰り旅行 1 班
	21	ザスパクサツ群馬試合観戦	11	12	日帰り旅行 2 班
7	24	納涼祭		26	日帰り旅行 3 班
8	20	東京女学館交流会	12	1	もちつき会
9	3	自治会主催バーベキュー		24	クリスマス集会
	17	ボランティア交流会	1	7	自治会主催新年会
	20	障害者スポーツ大会			

24	地域サービスデイ			
----	----------	--	--	--

③建物設備整備状況

月	内容	月	内容
4	受水槽水質検査	8	厨房トイレ配管つまり除去
	排水処理施設改修工事	9	浴室ボイラー修理
5	水道管工事	10	厨房害虫駆除
	館内ワックスがけ		ボイラー室ラインポンプ修理
6	居室2部屋改修工事	11	館内ワックスがけ
	蜂の巣撤去（ふきのとう軒下）	12	館内南側火災通報装置修理
7	建物点検	1	大雪でふきのとう雨樋破損
	厨房事務所網戸交換	2	浄化槽蓋交換
	ボイラー真空ポンプ交換		浴室、洗濯室漏電し修理
	重油点検口工事		
	蜂の巣撤去（グレイスホーム屋根）		

（5）短期入所事業

①概要

利用にあたり、問い合わせや見学があり、3件の要望のうち2件の利用が実現した。

②年間利用状況

支援機関	実利用者数	性別	延べ利用回数及び日数	
渋川市	1名	男	1回	67日
渋川市	1名	男	2回	4日
渋川市	1名	男	1回	39日
合計	3名		3回	110日

利用稼働率： 29.9%（前年度 57.5%）

③重点目標に対する取り組み

ア 個別支援計画に基づいたサービスを提供する。利用者・家族の意見を取り入れながら、より良い生活を送ることができるように支援を行なう。

- ・個別支援計画を作成し、本人にとって安心、安全な生活が送れるよう支援した。

イ 近隣の支援機関や見学者等に、短期入所事業の情報を提供し、利用率向上に繋がった。

- ・入所希望の見学者が来園した際、短期入所事業の情報を提供。3件の要望があり、2件の利用に繋がった。

3. あげぼのホーム〔生活介護事業・施設入所支援事業〕

(1) 概要

利用者の重度化や高齢化が進んでいることから支援全体の見直しを図る上で現在の利用者の状況を確認するために職員全員でアセスメントの確認を行なった。確認を行なったことで支援の統一を図ることにつなげることができた。また、重度化・高齢化から入退院を繰り返す利用者が多くなった。

職員においては、腰痛予防として一定期間、腰痛体操を行なう時間を設けたり、移乗方法を見直したり、介護リフトの導入を進めたりと腰痛予防対策に取り組んだ。

居室改修工事は、前期に4つの居室の改修工事を実施した。後期も改修工事を予定したが改修工事を行なうまでは至らなかった。

(2) 年間退所・入所状況

退所日	性別	実施機関	入所日	性別	実施機関
4月2日	女性	新宿区	4月25日	女性	三鷹市
5月7日	男性	江戸川区	6月14日	女性	江東区
7月6日	男性	文京区	8月10日	男性	港区
9月2日	男性	足立区	9月18日	男性	江戸川区
12月19日	女性	文京区	11月26日	男性	東村山市
2月8日	男性	江東区	3月22日	女性	品川区

(3) 重点目標に対する取り組み

①アセスメントを基に利用者支援及び支援体制の見直しを図る

- ・利用者一人ひとりのアセスメントについて会議を開き、全職員で全利用者の確認を行なった。それまで曖昧だった支援方法を統一することができた。しかし、全利用者の確認が終了したのが年度末になってしまい、日課等の支援体制の見直しまではできなかった。

②利用者の住環境整備の継続及び支援環境の整備を進める

- ・居室改修工事は、前期に4つの居室の改修工事を実施した。
後期にも4つの居室の改修工事を予定していたが、改修案の変更が何度かあり、改修工事実施までに至らなかった。
- ・居室以外の建物設備についても建物全体を確認し、計画案を立てた。

(4) 生活介護・施設入所支援事業

①生活支援

- ・アセスメントを通して、利用者一人ひとりの支援内容の再確認をすることができた。
- ・利用者の身体機能や摂食嚥下の状態に合わせた自助具の選定や食形態、車椅子上の姿勢など摂食嚥下の専門医による助言と指導を受けながら、利用者に合ったものを工夫して取り入れる事ができた。

②リハビリテーション

- ・理学療法士によるリハビリを実施。また、理学療法士の指導の下、日常生活支援の中に機能訓練を取り入れ、実施することができた。
- ・ベッド上や車椅子上のポジショニングなど体圧分散装置で確認しながら、理学療法士と連携を取り、安楽な姿勢保持を考え、対応した。
- ・職員の腰痛予防のため、デモ機の借用等を行ない検討を重ね機種異なる2種類の介護リフトを購入した。

③日中活動

- ・文芸同好会は、毎月1回、短歌や俳句、詩を作り、詠み合い、感想を言い合うなど利用者が意欲的に行なっていた。
- ・一粒の会は、毎月1回、聖書や聖歌に親しむ時間として過ごすことができた。
- ・娯楽クラブは、テレビゲームのスポーツを中心に行なった。見ている人も一緒にゲームをする人と楽しみながら行なうことができた。
- ・手芸会は一つの内容に拘らず、利用者個人の趣向に合わせて、作品を作製することができた。

活 動	内 容
一粒の会	あけぼのコミュニティー教会牧師、スタッフの協力による賛美集会
文芸同好会	自作の俳句、短歌、詩を詠む。
音楽クラブ	歌を歌うだけでなく、タンバリンや鈴など楽器も使いながら音楽を楽しむ。
カラオケクラブ	カラオケセットを使用し、各々の得意な歌を歌ったり、カラオケ大会へ向けての練習を行なう。
書を楽しむ会	自由な発想で書道を楽しむ。
手芸会	ピン留めやカチューシャなどを作ったり、ハンガー作り、編み物をしたりと利用者が色々な材料を使いながら楽しく、作品作りを行なう。
娯楽クラブ	テレビゲームの体感型ゲームやレクリエーションなど体を動かしながら楽しく行なう。

④健康管理

- ・経管栄養の利用者が嘔吐や痰がらみなどで肺炎や誤嚥性肺炎で入退院を繰り返すことが多くあり、看護師と生活支援員が連携をとりながら利用者の状態を確認しながら早期に対応するなどの対応をおこなった。

- ・障害が重度化し、医療行為の比重が高くなった利用者に対して、病院とご家族と話し合い、常時、医療ケア受けられる療養型病院への転院を行なうことが出来た。
- ・職員の腰痛対策として、3ヶ月間、定期的に腰痛体操を行なった。
- ・各月状況

5月	前期健康診断事前検査実施（利用者） 採血（利用者）
6月	前期健康診断実施（利用者） 聴打診（利用者）
7月	歯科検診（利用者） 深夜業従事職員健康診断（職員）
9月	耳鼻科健診（利用者）
9~12月	生活習慣病予防健診（職員）
10月	胸部X-P（利用者）
11月	インフルエンザ予防接種実施（利用者・職員）
12月	後期健康診断事前検査実施（利用者）
1月	後期健康診断実施（利用者） 35歳未満職員健康診断（職員）

・通院状況（延べ人数）

内科	外科	歯科	眼科	皮膚科	神経科	泌尿器科	呼吸器科	脳外科	整形外科	循環器科	神経内科	精神科	婦人科	合計
83	3	19	8	4	14	90	2	19	18	10	20	47	4	341

（平成26年度 448）

・園内治療状況（延べ件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
492	372	438	456	453	487	513	541	590	598	550	624	6,114

（平成26年度 5,554）

・医師診察状況（延べ人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
45	18	34	21	25	26	26	26	27	25	48	22	343

（平成26年度 148）

・入院状況

氏名	病名	期間	病院名
I. N	身体の振戦	4/3~4/17	北毛病院
H. H	尿路感染症	4/3~4/17	北毛病院
H. H	肺炎	4/18~5/7	北毛病院
S. H	肺炎	4/21~5/26	渋川総合病院

M. I	憩室炎	4/28~5/2	北毛病院
T. T	肺炎	5/5~6/12	北毛病院
A. R	左大腿部ボルト抜去	5/8~6/1	北関東循環器病院
I. N	肺炎	5/17~6/8	北毛病院
N. H	嘔吐・吃逆	5/20~6/4	北毛病院
S. H	痰詰まりの疑い	5/27~7/6	北毛病院
N. H	肺炎	6/8~6/23	北毛病院
T. T	発熱・嘔吐	6/30~	北毛病院
N. H	肺炎	6/30~7/14	北毛病院
I. N	誤嚥性肺炎	7/11~7/21	北毛病院
K. H	ペグ交換	7/13~7/14	北毛病院
N. S	尿路感染症	7/14~7/29	北毛病院
N. H	誤嚥性気管支炎 反復性嘔吐	7/14~8/26	北毛病院
K. K	肺炎	7/24~8/3	北毛病院
K. H	嘔吐症	7/24~8/13	北毛病院
I. N	検査入院	7/30~8/18	北毛病院
T. T	痰詰まりの疑い	8/2~8/21	北毛病院
A. R	心筋梗塞検査	8/4~8/6	北関東循環器病院
Y. K	嘔気・食欲不振	8/12~8/26	北毛病院
I. N	痰詰まりの疑い	8/18~8/19	北毛病院
I. N	尿路感染症	8/27~10/28	北毛病院
K. K	腰椎圧迫骨折	8/8~9/28	関口病院
N. H	下血	8/28~9/2	北毛病院
T. T	痰詰まりの疑い	9/11~9/30	北毛病院
A. R	左足関節剥離骨折	9/16~9/19	北関東循環器病院
T. T	嘔吐症	10/7~10/21	北毛病院
A. R	心筋梗塞手術	10/6~11/6	北関東循環器病院
O. K	肺炎	9/28~10/15	西群馬病院
I. N	SPO2 低下	10/30~12/17	北毛病院
T. K	急性腎不全	12/2~12/16	群馬大学医学部附属病院
T. T	嘔吐症	10/24~12/4	北毛病院
I. N	肺炎	12/19~12/20	北毛病院
A. Y	検査入院	1/13~2/22	北毛病院
I. T	脳梗塞	1/25~	中央群馬脳神経外科病院
T. T	ペグ交換	2/1~2/2	北毛病院
M. T	尿路感染症	3/28~	有馬クリニック

T. Y	尿路感染症	3/29~	北毛病院
M. E	肺炎	3/30~	北毛病院
K. K	気管支炎・喘息	3/30~	北毛病院

・訪問歯科状況（延べ件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	9	21	30	22	45	55	46	35	40	39	58	400

・訪問マッサージ（延べ件数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28	25	33	22	28	19	23	28	28	23	21	23	301

⑤食事

- ・魚のソフト食について、ペースとしたものをゼリー剤で固めて提供していたが、見た目を重視し、魚の形をしたソフト魚の提供を行なった。また、行事にはソフト寿司やソフトチキンなどの提供や蒟蒻、餅などを工夫した上で提供するなどペースト食の方が見た目を楽しめる食事を提供した。
- ・低栄養の利用者に対して、看護師、生活支援員、栄養士で連携を取りながら食事に高カロリー剤を加えたり、補助食品を食事以外で提供したりなどの対応を行なった。
- ・月1回の選択メニューや郷土弁当、鍋など季節に合わせた料理を提供することができた。

【常食】

平成 27 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー	1,615	1,609	1,616	1,605	1,617	1,620
蛋白質	61.8	65.3	60.4	62.5	64.5	62.2
脂質	43.0	42.5	44.6	43.4	43.8	44.9
塩分	10.8	10.9	10.9	11.0	10.9	10.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー	1,620	1,617	1,616	1,623	1,617	1,620
蛋白質	62.5	61.6	64.5	64.0	61.7	61.8
脂質	44.8	45.4	43.7	43.8	44.0	45.1
塩分	10.8	10.7	10.7	11.0	10.5	10.5

【軟菜食】

平成 27 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー	1,416	1,404	1,407	1,402	1,411	1,425
蛋白質	52.5	52.3	50.1	51.4	54.7	52.7
脂質	43.8	43.5	45.0	44.8	44.3	45.2

塩分	11.8	11.6	11.2	11.3	11.3	11.3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー	1,423	1,414	1,417	1,416	1,410	1,414
蛋白質	53.5	52.2	55.4	54.1	51.9	54.2
脂質	44.6	45.5	43.5	44.3	44.3	44.2
塩分	11.0	11.6	11.2	11.2	11.1	11.0

⑥年間行事報告

実施月日		内容	実施月日		内容
4月	15日	花見	10月	7日	館内ワックス掛け
	18日	家族懇談会		14日	夜間想定避難訓練
				20日	利用者胸部 X-P 撮影
5月	14,15日	利用者採血	11月	4日	館内ワックス掛け
	27日	日中想定避難訓練		5,12日	インフルエンザ ^a 予防接種
6月	2~3日	居室改修工事	12月	9日	館内ワックス掛け
	16~17日	(〃)		16日	年末会食会
	22~25日	(〃)		17日	東京都第三者評価受審
	17日	親笑レクリエーション			
	18,25日	利用者聴打診			
7月	8日	歯科検診	1月	1~3日	ニューイヤーカフェ
	13,14日	深夜業従事職員健康診断		6日	もちつき
				13日	新年会
				25,26日	35歳未満職員健康診断
				27日	館内ワックス掛け
8月	12日	暑気払い	2月	17日	館内ワックス掛け
	19日	ボランティア交流会 館内ワックス掛け		24日	地震想定避難訓練
9月	9日	館内ワックス掛け	3月	16日	館内ワックス掛け
	15日	群馬県指導検査			
	9,16日	耳鼻科健診			

(5) 建物設備整備状況

- ・介護リフト2台を購入した。
- ・低床ベッド(3モーター)2台、超低床ベッド1台を購入した。

(6) 短期入所事業

①重点目標に対する取り組み

- ・利用者本人や家族からの要望や意見を聞きながら、施設で安心して、楽しく過ごすことができるような個別支援計画を作成し、その個別支援計画に基づいた支援を行うことができた。
- ・長期利用している利用者には、施設での様子や体調面についてご家族と連絡を取り合った。また、定期利用の利用者には、ご家族に施設での状況を伝えるために連絡ノートを活用したり、電話をしたりなどで状況の報告をすることが出来た。

②利用状況

[短期入所事業]

依頼市区町村	実利用者数	性別	のべ利用回数	のべ利用日数
渋川市	1名	女性	51回	192日
安中市	1名	女性	1回	269日
沼田市	1名	男性	3回	10日
高崎市	1名	男性	1回	24日
合計	4名		56回	495日

利用稼働率 45.2%

[目黒区重度身体障害者短期入所事業委託]

依頼市区町村	実利用者数	性別	のべ利用回数	のべ利用日数
目黒区	1名	男性	1回	122日
合計	1名		1回	122日

4. めぐみの里〔生活介護事業・施設入所支援事業〕

(1) 概要

利用者の高齢化・障害の重度化に伴い、今まで以上に身体的な介護が必要になった。そのような中でソフト面・ハード面ともに多くの課題が生じているが、平成 27 年度は「職員の介護技術の向上」に力を入れて取り組んだ。

(2) 年間入退所状況

なし

(3) 重点目標に対する取り組み

①日中活動の検討を進める

- ・アセスメントを活用し、個々にあった日中活動の検討をすすめる予定であったが、支援をする職員が日中活動（缶班、羊毛班、和紙班、感覚統合Ⅰ・Ⅱ班）の活動内容・支援方法を把握しておらず、周知が図れていなかったため、マニュアル作成を優先した。
- ・年間を通して活動ができるように専門職員の配置を検討したが、採用募集など具体的な動きまではできなかった。

②介護の知識・技術の習得を図り、支援の質の向上へつなげる

- ・今年度より毎月のブロック会議の時間に現任研修を実施した。ブロック会議の時間に実施したことで、今まで参加できなかった契約職員も参加することができ、1人あたり年間5～8回程度は参加できるようになり、支援の統一を図ることができた。
- ・実際の支援現場で疑問点、不安を抱いていた内容を研修テーマにしたことで、研修がきっかけとなり日常の業務の中でも声を掛け合い、疑問点を確認しあうようになった。
- ・6名の職員が介護福祉士の資格取得をした。

(4) 生活介護事業・施設入所支援事業

①生活支援

- ・利用者状況の変化に伴い、「浴室検討」「食堂レイアウト」「日中活動」の3つのプロジェクトチームを立ち上げ、まずは現状の課題の把握を行なった。次年度以降、具体的な検討を行なう。
- ・28年度から職員の勤務時間が1日8時間勤務へと変更になったことで、職員の勤務体制と利用者の日課の検討を行なった。次年度以降、必要に応じて調整・変更を行なう。

②健康管理

- ・口腔ケア（歯石除去）を行なうために訪問歯科の導入を検討したが、職員の受け入れ体制が整わないために導入を見送った。
- ・8月に感染性胃腸炎（利用者5名）、2月にインフルエンザ（利用者25名、職員7名）、

3月に嘔吐下痢症（利用者26名）が流行してしまった。

・年間報告

月	項目	内容
5	採血	血液はBMLで検査
6	聴打診	嘱託医
7	深夜業従事職員の健康診断 歯科検診 ブラッシング指導	三愛クリニックが健診 県歯科総合衛生センター職員が来園 〃
10	定期結核健康診断（レントゲン撮影）	渋川市保健福祉事務所
11	インフルエンザ予防接種、聴打診 耳鼻科健診	嘱託医 川島Dr来園
1	35歳未満職員の健康診断	三愛クリニックが健診

※毎週、嘱託医（井口Dr）が来園

※奇数月に摂食嚥下専門医（山川Dr）が来園

※35歳以上職員の生活習慣病予防検診は10～2月に実施

・通院状況（延件数）

内科	外科	歯科	訪問歯科	耳鼻科	皮膚科	眼科	泌尿器科	整形外科	脳外科	婦人科	精神科	合計
153	19	190	0	8	10	30	18	24	14	0	76	542

（平成26年度648件）

・園内治癒状況（延人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
857	834	693	792	722	723	789	739	784	840	625	614	9012

（平成26年度9337人）

・医師診察状況（延人数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	4	6	4	4	4	7	4	4	4	6	55

（平成26年度47人）

・入院状況

氏名	病名	入院期間	病院
S. H	嘔吐（原因不明）	5/19～7/13	北毛病院
F. M	排便困難	10/9～10/10	渋川総合病院
I. S	誤嚥性肺炎	11/13～11/25	北毛病院

③食事

- ・選択メニュー（デザート）：委託業者の協力により、利用者自身が直前に選択できるか試行をしたが、職員体制などの課題が残り定期的な実施には至らなかった。
- ・開所時から使用している食堂のテーブルが、利用者状況の変化等に伴い身体に合わない

くなってきた。また、食堂全体のレイアウト変更も含めて検討をし、上毛新聞社愛の募金に「食事介助用テーブル交換」の補助金申請を出したが、申請が通らなかった。テーブル購入については、28年度以降に改めて計画を立てることとした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
エネルギー	1931.3	1924.4	1927.8	1894.3	1907.7	1903.7
蛋白質	76.4	75.2	76.0	72.2	73.6	72.7
脂質	51.5	50.8	50.8	48.8	49.6	47.8
塩分	9.9	9.6	9.5	9.5	9.5	9.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
エネルギー	1911.4	1912.6	1903.3	1929.0	1911.1	1922.5
蛋白質	72.8	73.2	71.8	75.1	71.7	72.9
脂質	49.0	48.7	48.3	50.1	48.5	49.9
塩分	9.4	9.7	9.6	9.6	9.8	9.8

④年間行事報告

月	日	内容
4	22	お花見（ブロックごとに夜桜も実施）
5	28	知的レクリエーション交流会
6	6	地域サービスデー
	10	高崎パイロットクラブ チャリティサマーコンサート招待（7名参加）
	19	日帰り旅行1班（伊勢崎スマークで買い物）
	21	ザスパクサツ群馬サッカー観戦招待（4名参加）
	28	Uレク
7	9	日帰り旅行2班（伊勢崎華蔵寺公園）
	12	家族連絡会
	15～16	一泊旅行1班（小平の里キャンプ）
8	19	東京女学館交流会
9	1～2	一泊旅行2班（西武ドームで野球観戦）
	13	Uレク
	15	渋川広域圏福祉パレード
	15～17	ナイスハートフェア（作品出展）
	25	日帰り旅行3班（ぐんま昆虫の森）
	27	障害者スポーツ大会
10	2	ふれあいボーリング（5名参加）
	4	障害者スポーツ大会
	6～7	一泊旅行3班（鬼怒川温泉）
	11	日帰り旅行4班（プロバスケットボール観戦）
	15	日帰り旅行5班（食を楽しむツアー）
	18	家族連絡会

	21	日帰り旅行 6 班 (しゃくなげの湯)
11	9~10	一泊旅行 4 班 (ディズニーランド)
	12~13	一泊旅行 5 班 (塩原温泉)
	29	Uレク
12	5	もちつき交流会 (渋川市勤労者協議会 31 名来園)
	16	クリスマス会食会 (アネーリ渋川)
1	17	家族連絡会
	18~20	(ゆうあいフェスティバルは雪のため不参加)
2	3	節分 (豆まき)
	26~27	(あすなる祭はインフルエンザ流行のため作品出展のみ)
3	13	Uレク

(5) 建物設備整備状況

実施月	内 容
4	法人玄関スポットライト工事 厨房害虫駆除 (西武消毒) 空き缶圧縮機定期メンテナンス (3 年に 1 度)
5	消防設備点検・消火器点検 エレベーター点検
6	厨房スチームコンベクションオーブンの入れ替え しらねセンサースピーカー修理
7	厨房洗淨カラン修理 理髪室エアコン交換
8	食堂扉修理
9	スプリンクラー法令点検 法人玄関自動ドア修理 厨房排気ファンベルト交換
10	アトラス購入 (中古) 厨房ガステーブル交換 厨房害虫駆除 (西武消毒)
11	エレベーター点検 消防設備点検
12	エアリウムカウンター定期メンテナンス 合同事務所ブラインド交換 厨房回転釜オーバーホール交換 厨房外気処理フィルター 厨房ガス警報器交換

	非常照明用バッテリー交換（1階、2・3階廊下）
1	キュービクル電気検針機取付 ※降雪対応
2	パソコン バックアップ用ハードディスク取付 エレベーター法令点検 法人玄関自動ドア修理
3	浄化槽汚泥引き抜き 真空式空調暖房温水器の缶体煤洗浄工事 スプリンクラー法令点検 利用者居室タンス納品（新規3台、リフォーム4台）

※ワックス掛け：6,9,11,3月の年4回実施（平成美装）

（6）短期入所事業

①重点目標に対する取り組み

- ・受け入れマニュアルに沿い、安定した受け入れをすることができた。
- ・3月より、沼田市の女性（入所待機1番）をロングショートステイとして受け入れた。
（単身者であり、榛名病院で社会的入院をしていた）

②年間利用状況

支援機関	実利用者数	性別	延べ利用回数及び日数	
渋川市	2名	男性	9回	31日
	2名	女性	4回	8日
吉岡町	1名	男性	1回	2日
前橋市	1名	男性	8回	20日
武蔵野市	1名	女性	7回	21日
高崎市	1名	女性	45回	79日
沼田市	1名	女性	15回	108日
合計	9名		89回	269日

利用稼働率 54.2%（前年度 58.6%）

（7）日中一時支援事業

①重点目標に対する取り組み

- ・短期入所同様の対応を行なった。

②年間利用状況

支援機関	実利用者数	性別	延べ利用回数及び日数	
渋川市	1名	女性	1回	1日
前橋市	1名	男性	12回	13日
〃	1名	女性	15回	15日
高崎市	1名	男性	29回	29日
吉岡町	1名	女性	13回	13日
東吾妻町	1名	男性	36回	36日
合計	6名		106回	106日

5. エステル〔就労継続支援事業B型〕

(1) 概要

景気低迷に伴い軽作業事業が大幅な売上減少となったが、パン工房事業は売上増、支出削減に成功した。その結果、収支差額は利用者工賃向上に伴う支出増があったものの、ほぼ前年と変わらない数字となった。

尚、平均工賃は9,550円と前年よりも450円増額したが、目標平均工賃9,600円を達成することはできなかった。

(2) 年間退所・入所状況

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
10月31日	男性	吉岡町			

(3) 重点目標に対する取り組み

①平均工賃額9,600円を目指す

- ・新たな作業に向けた動きは、共同受注窓口からの様々な情報提供に対し、エステルとして参加の意思表示をするも受注に至らなかった。（納期や金額面で折り合わず）しかし、次年度群馬県セルプ協焼き菓子事業への参入を目指し、研修会等へ参加した。
- ・生産活動における売上は昨年度を下回った。原因は、景気低迷における軽作業事業の売上減少が大きかった。しかし、パン工房事業は年間売上で3期ぶりに600万円を超えた。
- ・平均工賃は、売上減を支出削減で補い3年連続の工賃アップへと繋げた。
- ・生産活動売上と平均工賃

生産活動内容	平成27年度実績	平成26年度実績	前年比
公園清掃	993,600	993,384	+216
クリーニング事業	3,946,000	3,947,630	-1,630
パン工房事業	6,009,414	5,806,542	+202,872
軽作業事業	2,667,979	2,979,173	-311,194
合計	13,616,993	13,726,729	-109,736
平均工賃（月額）	9,550	9,104	+446

②将来の福祉サービス事業の展開を検討し、準備を進める

- ・あじさいの家を含めた多機能型事業所移行（就労継続支援B型・生活介護）を検討した。また、建物老朽化に伴う建替工事の国庫補助申請を行なうも、審査の結果見送りとなった。次年度は、本人・家族のニーズを確認しつつ、事業移行そして国庫補助

申請は継続して進める。

(4) 利用者支援

①生産活動支援

- ・新規作業（くじ折り）を提供することで、既存の作業が難しい利用者にも作業提供することができた。
- ・パン工房事業では、イベントに多数参加することで、売上増に繋がると共に、店舗PRもすることができた。（新規イベント参加4件）

②生活支援

ア 業務状況

- ・昨年度同様、精神的に不安定な利用者に対して、保守体制を充実させ見守の強化を行なった。
- ・レクリエーションとして、日帰り旅行、慰労会、夏・冬の外出等を行なった。
- ・健康管理として、感染症拡大を予防するための健康チェック（ご家庭でのバイタルチェック及び記録表への記載）を実施した。また、玄関には自動手指消毒器を設置した。

イ 年間行事報告

月	日	内 容
4	18	家族会総会（懇談会に17家族参加）
	22	お花見（沼田公園）
	30	地震想定避難訓練
5	27	春の健康診断（採血）
	28	知的障害者施設レクリエーション交流会
6	25	エステル・あじさいの家合同防災訓練（消防署立会い）
	26	春の健康診断（聴打診）
9	7	レクの日（水沢亭への食事外出）
	15	福祉パレード利用者1名参加
10	15	利用者日帰り旅行（東京方面）
	29	胸部レントゲン撮影
11	18	秋の定期健康診断・インフルエンザ予防接種
	26	地震想定避難訓練
12	10	エステル慰労会（アネーリ渋谷にて）
2	4	レクの日（万葉亭への食事外出）
	25	エステル・あじさいの家合同防災訓練（消防署立会い）

ウ 通所支援

- ・通所支援として、1日3～4便の送迎便を運行。利用者の状況に合わせルートや席順を変更しつつ送迎した。特に、グループホーム体験利用する利用者が増え、その都度ホームまでの送迎対応を実施したが問題等なかった。

エ 保健衛生支援

- ・保健衛生支援として、毎月の体重血圧測定、年2回の定期健康診断、インフルエンザの予防接種や胸部レントゲン撮影を実施した。また12月より玄関に自動手指消毒器を設置した。

オ 給食支援

- ・給食支援として嗜好調査を行ない、可能な範囲で希望のメニューを取り入れた。また、選択メニューを月2回実施した。給食の業者（グリーンハウス）と共に毎月会議を行い、検食での指摘事項について検討した。

カ 家庭との連携

- ・家庭との連携として、施設別家族懇談会を開催した。連絡帳を毎朝確認し、特記がある場合は、朝礼で再度確認すると共に、家庭へ電話での連絡を行なった。
- ・グループホーム・ケアホーム利用者については、サービス管理責任者や世話人と連携を密にとった。
- ・毎月末にはエステル通信を発刊し、翌月の予定等情報発信した。

③建物設備整備等実施状況

実施月	内 容
4	害虫防除の薬剤散布（マンナ、配膳室）
5	消防設備点検
6	館内ワックス掛け
9	作業棟電気メーター交換 マンナ浄化槽清掃
10	害虫防除の薬剤散布（マンナ、配膳室）
11	給湯・暖房ボイラーの清掃、点検 消防設備点検
12	給湯ボイラー逃がし弁交換 作業室カーテン交換
2	館内ワックス掛け
3	エステル浄化槽清掃

(5) 日中一時支援事業

- ・利用者なし。

6. シヤローム〔就労継続支援事業B型〕

(1) 概要

利用者の安全を第一に考え、利用者の働く意欲と生産力の向上を目標に支援を行ってきた。生産活動では、平均工賃は前年度よりやや増加したが、気候等の影響により売り上げ目標を達成できなかった。

(2) 年間入退所状況

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
1月31日	女性	太田市	4月1日	男性	沼田市
3月31日	女性	渋川市			

(3) 重点目標に対する取り組み

①生産活動収入 1,700 万円、月額平均工賃 26,000 円を目指す

- ・りんごは、台風被害等なく、ほぼ順調に栽培・販売できたが、平成 26 年度に借用したりんご園を返却したため、前年度の売り上げを下回った。
- ・野菜は、枝豆、ほうれん草、スティックセニョール、オータムポエム等の栽培・出荷がほぼ順調に進んだが、気候等の影響により前年度の売り上げを下回った。
- ・平成 26 年度の実績を踏まえ、平均工賃を 26,000 円に設定。しかし全体の生産活動収入は約 1,500 万円に、月額平均工賃は約 25,000 円にとどまり、目標を達成できなかった。
- ・生産活動売上と平均工賃

生産活動内容	平成 27 年度実績	平成 26 年度実績	前年比
りんご	10,048,611	11,196,404	-1,147,793
野菜	4,103,840	5,551,759	-1,447,919
加工品	1,013,210	1,440,310	-427,100
清掃委託	252,000	252,000	0
合 計	15,417,661	18,440,473	-3,022,812
平均工賃(月額)	24,745	24,296	449

②利用者支援マニュアルの作成

- ・現任研修の時間等活用しながら、農機具管理や利用者支援記録作成等のマニュアルは完成したが、他のマニュアルについては、体調不良の職員が出たこともあり、予定通りに進まず、次年度へ持ち越しとなった。

(4) 利用者支援

① 生産活動支援

- ・朝礼、終礼また各作業現場等で注意を呼びかけ、大きな事故や怪我等を防止することができた。またヒヤリハットや苦情等を職員会議等で検証し、再発防止を図った。
- ・利用者個々の能力・適正を見極め、作業内容・作業配置を固定化することで、作業の効率化を図り、生産性を高めることができた。

7. マイーム〔共同生活援助事業〕

(1) 概要

平成27年度より、めぐみの里生活支援員2名がマイームの生活支援員を兼務する体制をとった。しかし、世話人業務や通院支援が主となってしまい、本来計画をしていた個別支援計画の作成、導入には至らなかった。

(2) 重点目標に対する取り組み

①利用者支援を見つめ直す（虐待防止の視点より）

- ・利用者のケース研究と個別支援計画を作成する予定だったが、通所施設で作成したフェイスシートや支援計画を確認するにとどまり、完成には至らなかった。
- ・虐待防止の取り組みとして、めぐみの里の「職員セルフチェックシート」を活用する計画だったが、シートは活用せず、毎月の打合せの際に支援の振り返りを実施した。また、世話人が精神的に孤立しないように、巡回・電話連絡・面談を密に行なった。
- ・世話人が地域支援部会や情報交換会に参加し、他法人の取り組みを知る機会を設けた。

②マイームとして一体化を目指し、まずは横断的な連絡体制の構築を目指す

- ・各世話人がどのグループホームでも支援ができる形をとりたいと考え、2名の世話人が2箇所グループホームを兼務する体制をとった。しかし、実際行なってみたところ、勤務調整がむずかしく、また世話人に精神的な負担がかかってしまうことが分かった。次年度は違う形での一体化を図る。

③防災意識を高めると共に、地域における協力体制の構築を図る

- ・降雪時などで世話人がタイムリーに支援に入れないことがあったが、事前に非常食を工夫しておいたことで、利用者同士が協力し合い、食事をとることができた。
- ・地域における協力体制の構築を図るための具体的な取り組みはできなかった。

各グループホーム

(1) 重点目標に対する取り組み

①利用者支援を見つめ直す

- ・マイーム重点目標①と同様

②建物修繕計画に沿った整備をすすめる（バルナバホーム）

- ・外壁補修や舗装整備を行なったが応急処置であるため、より中長期的な計画を立てる必要性があった。

③防災対策に努める（クロスホーム）

- ・開所から1年未満のグループホームだったため、防災訓練を年4回実施する予定で計画していたが、消防署やバックアップ施設等を交えた日程調整ができず、年2回に変更した。
- ・利用者が世話人不在時でも応援要請ができるように、電話応答の練習を実施した。

(2) 利用者支援に対する取り組み

①生活支援

- ・本人の様子・申し出等を支援に活かすため、4月よりNDソフトに記録を記載し、マイムの日誌を作成した。
- ・毎月1回、半日のスケジュールで外出支援（市内ベイシア等）を開始した。日用品購入のために利用される方が多かった。今後、公共機関やタクシー等の手配・利用ができるように繋げていく。
- ・7月より宿直者による夜間の巡回（21時）を開始した。（バルナバホーム、ダビデホーム、クロスホーム）
- ・利用者から世話人に対する苦情（食事の献立、味付け、業務態度等）が挙がったため、利用者、世話人、バックアップ施設を含めた話し合いの場をもった。その後、改善傾向がみられた。（ダビデホーム）

②健康管理

- ・毎月1日に体重測定を実施し、体重の増減が過度にみられた場合には、利用者と世話人、生活支援員と共に検討した。必要に応じて、医療機関を受診した。
- ・渋川市による健康診断を本人の意向に添って受診した。

(3) 建物設備に対する取り組み

①バルナバホーム

外壁の劣化を含め建物の老朽化が顕著に見られている。整備計画に基づき対応にあたる。
(まずは外壁の補修工事から着手する)

- ・外壁の落壁については応急処置のみ行なった。
- ・未舗装路の整備を検討したが、私有地であるため舗装等を行なえない。段差等が著しく、危険が予想される箇所へは土嚢を設置した。

②さくらホーム

電化製品等の入れ替えを計画的に進める（今年度はガスレンジ）

- ・ガスレンジを購入する予定だったが、換気扇が破損したため優先して換気扇交換を行なった。

③ダビデホーム

建物の維持管理における中・長期計画をたてる。

- ・中長期計画を作成したが、今後、利用者の体力や年齢に合わせた改修が必要になることが予想される。

④クロスホーム

定期的な建物確認の実施と修繕箇所をリストアップし、優先順位をたてて対応にあたる。

- ・修繕箇所をリストアップし、業者に相談した。次年度以降、優先順位をたてて対応する。

第4章 相談支援事業

1. ぶどうの木

(1) 概要

通所保護者から、通所以外のサービスの利用希望の相談件数が増加した。特に短期入所の利用希望が多かった。法人内の入所施設では対応できないため、近隣の事業所を紹介した。

入所利用者では、医療的なケアが増大し、療養型の病院へ移行したケースが1件あった。

(2) 実施状況

全契約者数	新規契約者数 (新規利用等のため)	契約終了者数 (退所等のため)	サービス等利用計画作成数	モニタリング作成数
245名	9名	8名	111件	222件

(3) 重点目標に対する取り組み

①相談支援専門員としての知識の向上

- ・知識習得のために「発達障害者支援者研修」「ステップアップ研修」に参加した。
また、「面談技法スキルアップ研修」に参加したことで、面談に関する留意点や注意点などを踏まえた面談をすることができるようになった。

第5章 高齢福祉事業

1. さつき〔地域密着型サービス認知症対応型老人共同生活援助〕

(1) 概要

昨年度に引き続きセンター方式のアセスメントを使用し、再アセスメントを実施した。身体状況の変化や認知症の進行が著しかったが、7名の再アセスメントを終了させた。

認知症の理解を深めるため「介護職員実践者研修」に職員1名参加。その他外部研修には半数の職員が参加した。職員会議等で現状に照らし合わせ具体的な今後の対応について話し合い、統一した支援につなげた。

(2) 年間入退所状況

退所日	性別	支援機関	入所日	性別	支援機関
7月9日	男性	渋川市	10月6日	女性	渋川市

(3) 重点目標に対する取り組み

①再アセスメントを継続して行う

- ・センター方式シートを活用した再アセスメントを実施した。各利用者の身体状況の変化や認知症の進行が著しかったが、7名の方の再アセスメントは終了させることができた。

②看取りケアへの取り組みを進める

- ・看取りケアに関する研修に参加した。研修で学んだことが同意書の整備やフロチャート作成に活かされ、それぞれ完成させることができた。
- ・男性1名が看取りケアに該当する状態になった。幸い利用者は回復したが、家族と医師、施設職員間で面接を繰り返し行ったことで共通認識を図ることができた。

(4) 利用者支援

①活動

ア 生活支援

- ・貼り絵や絵画、アクリルモップづくりを日中活動に追加し実施。農作業ではトマト、キュウリ、薩摩芋の栽培、収穫を行った。

イ 創作・文化活動

- ・該当利用者の米寿の祝いを実施。ヒストリームービーを作成し、その時代背景を職員、利用者で振り返った。

ウ 地域活動

- ・運営推進会議を7回（5、6、8、10、12、2、3月）実施した。より理解を深める運営状況の理解を深めるため、避難訓練の様子などを動画によりその状況を発信した。

②食事

- ・接触嚥下に課題のある利用者に対して、医療との連携を図り、主治医に指示書を書いて頂き、病院の栄養士から直接栄養指導を受け個々に合わせたメニューを提供した。

③健康管理

- ・1日3回のバイタル測定を実施。記録に残し、日々の健康状態を把握した。
- ・体重測定は1月に実施。毎月の実施を計画したが、当日の職員数の関係等で実施できないことが多かった。
- ・入居者2名が転倒により骨折事故を起こしてしまった。転倒対策として現在各トイレにコールを設置、居室に人動センサーの設置を行なった。

④住環境整備

- ・掲示物をその都度交換した。
- ・中庭整備、雨樋修理は行えていない。め再検討中であり、整備まで至っていない。

⑤建物設備整備

- ・建物設備、整備についての中長期計画を作成した。館内の設備点検を実施した。

⑥年間行事報告

月	日	内容	月	日	内容
5	12	春の外出 (1班)	11	6	秋の外出 (3班)
5	22	春の外出 (2班)	11	20	秋を味わう会
6	1	春の外出 (3班)	12	25	クリスマス会食会
8	13	米寿を祝う会	1	1	新年会
10	21	秋の外出 (1班)	2	3	節分
10	30	秋の外出 (2班)			

※運営推進会議を7回実施した。

第6章 公益事業

1. あじさいの家

(1) 概要

昨年度から引き続いて、あじさいの家の今後について渋川市と話し合いの機会を持ったが、大きな変更事項はなかった。(平成28年度事業継続)あじさいの家・エステルの建物老朽化に伴う建て替え工事の国庫補助金申請を行なったが見送りとなった。

利用者ご家族が体調を崩され家庭で介護が困難な状況となった際、ぶどうの木と連携し、長期ショートステイの利用や日中はあじさいの家に登園できるよう支援を行った。

(2) 重点目標

①介護技術の向上を図り、利用者支援につなげる

- ・利用者の体力低下や機能低下が顕著で、理学療法士も含めた介助方法を職員間で話し合い、統一した支援(歩行、食事等)を行なった。更に、自身の支援方法を映像に残し、それを客観的に見ること、更に他職員と共に検証する機会を計画するも、実現に至らなかった。次年度は、計画した内容を実行したい。

②あじさいの家の今後についての検討

- ・渋川市と話し合い、平成28年度の事業継続の返答は得たが、今後の部分においては、引き続きやりとりを継続することで確認した。
- ・エステルを含めた多機能型事業所への移行、そして建物老朽化に伴う国庫補助申請を行なうも見送りとなった。次年度は、改めて本人・家族の意向を確認しつつ、事業移行そして国庫補助申請は継続して進める。

(3) 利用者支援

①生活支援

- ・利用者の家庭での様子やあじさいの家での様子を再確認し、アセスメント表の見直しを行なった。

②活動支援

- ・運動では、散策と室内運動を継続して行なった。室内運動は、関節可動域の改善等ではなく、利用者自身が楽しんで体を動かせるよう取り組んだ。
- ・創作活動では、小グループで前橋七夕まつりの作品作りとカレンダー作りに取り組み利用者一人ひとりが作業に参加できた。

③健康管理

- ・定期健康診断を2回、レントゲン撮影、インフルエンザの予防接種を行ない、病気の予防、健康の維持管理を行なった。ブラッシング指導の結果は家族に伝えたことで、その後に歯科通院に繋がった。

④家族との連携

- ・親が体調を崩し長期間ショートステイを利用するケースが3件あった。相談支援事業所ぶどうの木職員と共に対応した。
- ・4月に家族連絡会・施設別懇談会を実施した。
- ・連絡帳の他に電話連絡、会食会など情報交換を密に行なった。
- ・外出の様子などを写真で手渡した。また、あじさい便りなどで毎月発信した

(4) 年間行事報告

開催月日	内 容	開催月日	内 容
4月18日	家族総会・懇談会	8月28日	外出（綾戸築）
4月15日	渋川市総合公園にてお花見	9月30日	外出（耳飾り館・保護者参加）
5月28日	知的障害者施設レクリエーション交流会	12月16日	クリスマス会食会 (保護者参加)
6月17日	外出（さくらんぼ狩り・保護者参加）	12月24日	恵の園クリスマス集会
7月10日	前橋七夕まつり見学		

(5) 年間利用状況

月	開園日	登録人数	実利用人員数	開館時間	延利用人員数
4	21	9	9	147	163
5	18	9	9	126	142
6	22	9	9	154	175
7	22	9	9	154	162
8	19	9	9	133	147
9	19	9	9	133	150
10	21	9	9	147	164
11	19	9	9	133	141
12	19	9	9	133	140
1	15	9	9	105	117
2	20	9	9	140	156
3	22	9	9	154	170
合計	237日	108	108	1,659時間	1,827人

(平成26年度 241日 1,680時間 1,925人)

※平成28年1月18日(月)～1月21日(木)積雪の為あじさいの家を休園とした。

開館時間 9:00～16:00

1日の平均利用人数 7.7人(1日の利用定員 10名)